



## JAMCA ニュース

No.118

2023年7月1日

発行  
協会事務局  
編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会  
〒160-0015 東京都新宿区大京町31  
ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066  
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3  
☎03-3601-2535 FAX 03-3601-2988  
ホームページアドレス <https://www.jamca.jp/>

# 100年に一度の大変革に乗り遅れないように

学校法人小山学園東京工科自動車大学校 学園長  
全国自動車大学校・整備専門学校協会 理事

山本 眞



JAMCA ニュース No.117号 (2023年4月号) ホンダ学園常務理事中嶋 歩先生のご心配と同じことを私も心配します。自動車整備専門学校の将来をどう考えれば良いのでしょうか。環境問題として、パリ協定で世界の平均気温上昇を産業革命前より1.5°Cに抑えるために、2050年までにカーボンニュートラル（世界全体で温室効果ガスの大部分を占めるCO<sub>2</sub>の排出-吸収を実質ゼロにする）を達成しなければならないことになりました。

それを受けて、新興メーカーが様々な電動車を作り出し、既存メーカー各社も電動車にシフトし、さらに自動車の使われ方も多種多様に変化して来ている中で、自動車整備士にはより難度の高い技術と知識が求められています。

「国民の生命と安全を守る」自動車整備専門学校のミッションはどう変わるのでしょうか。自動車を作るメーカー、それを運転するドライバー、その間にいる自動車整備業界、そしてその整備技術者を育てる学校、それぞれどういう課題・目的を抱え、どういう人材・施設が必要となるのでしょうか。さらに厳格な交通規則や、車検制度はどう変わり、技術者育成にどのような規制を加えるのでしょうか。夫々の考え方を公開して、準備を始め

ないと間に合わないのではと思います。特に技術者育成は始めてから成果を上げるのに時間がかかる業務だと考えます。手遅れになって、ミッションを失わないように注意したいと思います。

大変革の時は日頃抱えている課題に大改善を加えるチャンスのようにも思います。先ず電動化にも勇気を出して挑戦する必要があると思います。電動化になれば働き方も変化し、職場の人材も変わり、雰囲気も変わるかも知れません。電子制御が増え、通信工学にまで勉強を伴うかも知れません。課題となる技術を早く捉えることが必要になるでしょう。電動化は止むを得ずやる消極的な変革ではなく、例えばクルマの姿勢制御とか、乗り心地の改善とか、安全運転の向上など、積極的な改善を望んでいる学者もおられます。

整備工場はユーザーに対する技術的説明で、不具合を治すだ

けに留まらず、何故そうしたのかについてお客の納得性が求められるでしょう。専門学校の教育は講義の時間より実習の時間の方が多く、「知っている」から「できる」まで教えるのが特長でしたが、納得できる説明ができるためには、整備技術のより広い理解がないと説明できないでしょう。「できる」だけではなく「何故か」を説明できるまで知識を上げなければならないと思います。

勝手なことを申し上げますが、この大変革の中で、「何故」の説明ができるまで技術をレベルアップすることは、学生募集で大学に負けない学校種になることと同じレベルの課題だと考えます。より頼れる学校になるためには、2年間にしろ、4年間にしろ、学生も教職員も経営者も、より緊張感のある学校に成らなければ、少子化の中では成長できないのではないのでしょうか。

## CONTENTS

- 2面 カーシェアリングの状況
- 3面 クルマ大好き!、活躍!! 卒業生
- 4面・5面 カーボンニュートラルへ向けた合成燃料の世界
- 6面・7面 協会トピックス・地区通信
- 8面 私の教材活用・お知らせ・編集後記